

まだ若い頃でしたが、毎年10月に開催される福島県中学校教育研究会の研究協議会の公開授業を参観する機会がありました。授業者は私と同年代の方でした。「ディベート」の授業でした。今では、学校教育にディベートは定着している感があります。しかし、当時としては、かなり先進的な取組でした。

ちょうど自分の授業にディベートを取り入れようとしていた私にとっては、実にタイムリーでした。ルールに基づき、生き生きと活発に討論をする生徒の姿は、私にとっては、神の啓示としか思えませんでした。「あなたも、ディベートをやりなさい」そう聞こえました。

授業者は、「ええと」「あのう」「そのう」などとは、一切言いません。指示が明快かつ簡潔でした。授業に適度な緊張感があり、テンポよく進んでいきます。普段から、こういう授業であることは、容易に想像できました。

10年ほど前になります。同じく県研究協議会の公開授業を参観する機会がありました。このときは、縁あって指導案作成の段階から関わることができました。南会津地区の先生方は、まとまりがよく、授業者だけに任せることはなく、みんなで指導案を練り上げていきました。

当日を迎えました。南会津地区の総力を結集した指導案をもとに、授業が行われました。授業者にとっては、自分が作成した指導案ではなく、やりづらい面もあったと思います。それでも、生徒と授業者の関係がよく、生徒とともに作り上げていく授業でした。生徒たちが授業者を信頼していることがよくわかる授業でした。何だか心温まる授業だったのです。南会津の地で、このような授業が展開され、生徒と先生との絆ができていくのかと思うと、涙が浮かんできました。

6年ほど前になります。同じく県研究協議会の公開授業を参観する機会がありました。このときも、縁あって二人の授業者から相談を受け、一緒に授業づくりから関わっていました。お二人と、いろいろと話をしました。このフリートークキングが重要です。何気ない話の中にダイヤモンドが埋まっているかもしれません。

普段は、どんな授業をしてきたか。今までに、どんなことに取り組んできたか。県大会では、どんな授業をしてみたいか。二人の授業者の思いや願い、考えを聞きました。ここが大切です。思いや願いが、すべてのベースとなります。

私の方から、ある提案をしました。二人の授業者にとって新しいこと、参観者にとって勉強になること、そのときの教育的な要請などの観点から、「知識構成型ジグソー学習」をやってみませんかという提案をしました。答えがすぐに返ってくるはずがありません。聞いたことがない用語だし、やったことがないのでから判断できません。答えようがありません。

(次号に続く)